

クラス：	<h1 style="text-align: center;">聴く・話すための発音 II</h1> <h2 style="text-align: center;">Pronunciation for Listening and Speaking</h2> <h3 style="text-align: center;">- よりスムーズなコミュニケーションのために -</h3> <h2 style="text-align: center;">EPrM-62BH</h2>
曜日：	<b>Saturday (隔週) ハイブリッド授業</b>
時間	<b>14:30-16:20</b>
レベル：	<b>中上級</b>
講師：	<b>Ms.大石美幸</b>
目的：	<p>「聴く・話すための発音 I」を終了した学習者が、学んだ「英語の音の特徴と仕組み」を踏まえ、更に「英語の音体系」の理解を深め、実践応用を向上させることを目的とします。</p> <p>「聴く・話すための発音 I」同様、本講座の目指すところは、「発音のための発音」を超えた、「よりスムーズなコミュニケーション」です。「英語の音の特徴と仕組み」を、a) 個々の音、b) 語強勢と文強勢、c) イントネーション、d) 実践応用上現れる諸現象の四つの観点から学んでいきます。</p>
授業内容：	<p>上記四視点で構成されたテキストに沿い、英語の音の仕組みを学び、発音練習で身に付けていきます。</p> <p>a) 英語は日本語と違い、音と綴りが一致しません。まずそのことを理解したうえで、全母音、全子音の各音(音素/phonemes)を学び、身につけます。</p> <p>b) 音節(syllables)、強母音(strong vowels)と弱母音(weak vowels)の概念を理解し、個々の音が語(word)になった時、更には句(phrase)や文(sentence)になった時の音の変化を学びます。文中語句の切り方とつなげ方、英語らしい強弱のリズム、品詞による強弱音分別の仕組みを学び身に付ける練習をします。</p> <p>c) 英語の様々な抑揚の型(intonation patterns)を学び、それぞれが司る機能、微妙なニュアンスや気持ちの表現を理解し、目的に合った表現ができることを目指します。</p> <p>d) 上記理論を実践応用する際に生じる諸現象の対処法を 1) 速度(Speed)、2) 機能別トーン(Tone)、3) 英米以外の世界の地域で聞かれる様々な英語の音(Accents)の観点から学びます。</p>
教材：	<p><b>English Pronunciation in Use, Intermediate, Second Edition;</b>  <b>Cambridge University Press</b></p> <p>上記 a) Unit 17 と、d) Unit 50 から始めます。</p>
備考：	<p>「聴く・話すための発音 I」(中級)の中上級講座です。本講座受講の目安としては、「聴く・話すための発音 I」を三期以上履修された方を対象とします。</p>